現在、札幌市は、毎年度の財源不足を補うため、平成13年度から臨時財政対策債(赤字債)を20年間にわたり漫然と発行し続けています。

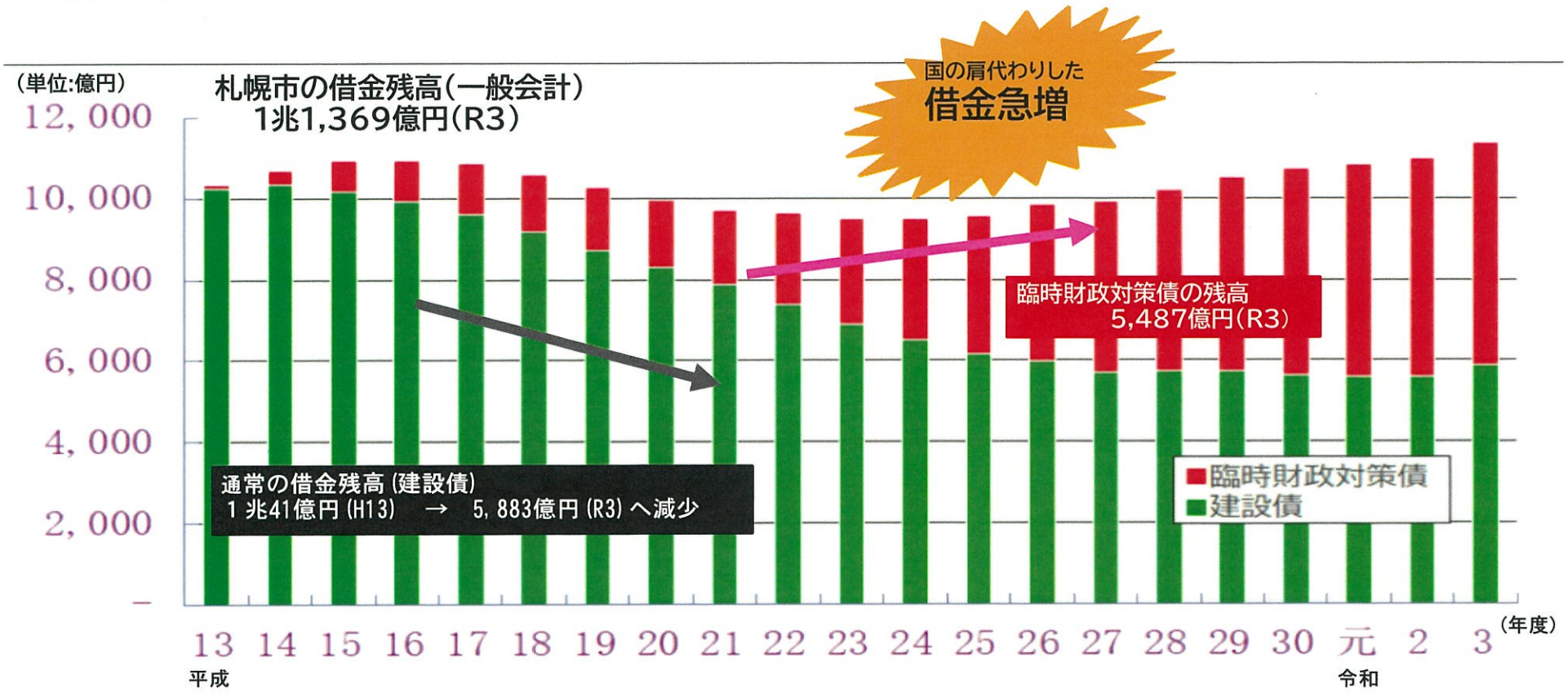
札幌市 がどんなに頑張っても借金を減らせない仕組み。

臨時財政対策債（りんじざいせいたいさくさい）ってなに？

本来、国が**地方の財源不足分**を地方交付税（現金）で地方に渡すべきところを、代わりに地方に借金をさせているものです。平成13年度に「臨時的な」措置として開始した制度ですが、令和4年度までの延長が法律で決まっています。

札幌市では、長年、必要な公共事業費を縮小し通常の借金（建設債）を減らしてきていますが、国の肩代わりをした借金が嵩んで残高は一向に減りません。

この国の肩代わりをした借金が、「臨時財政対策債**（赤字公債）**」です。



国は、この臨時財政対策債の元利償還金に対して、後年時に１００％地方交付税を措置して地方に返済すると約束していますが、実際は地方交付税の原資が足りず、何ら現金として返されていないのが実情であり、札幌市においては、この元利償還金を返済するためにさらに臨時財政対策債を乱発し、漫然と**借金に借金を重ねている**のが現状です。

令和４年度予算においても、市税と地方消費税交付金で合わせて２２３億円の増収を見込んでいるのにも拘わらず、それでも足りず財源不足に充当するため臨時財政対策債の発行（借金）を４００億円計上しています。

このように、臨時財政対策債は、借入限度額の無い無担保のカードローンみたいなものであり、雪だるま式に増えていく、正に赤字垂れ流しの麻薬を使っているような借金と言えます。

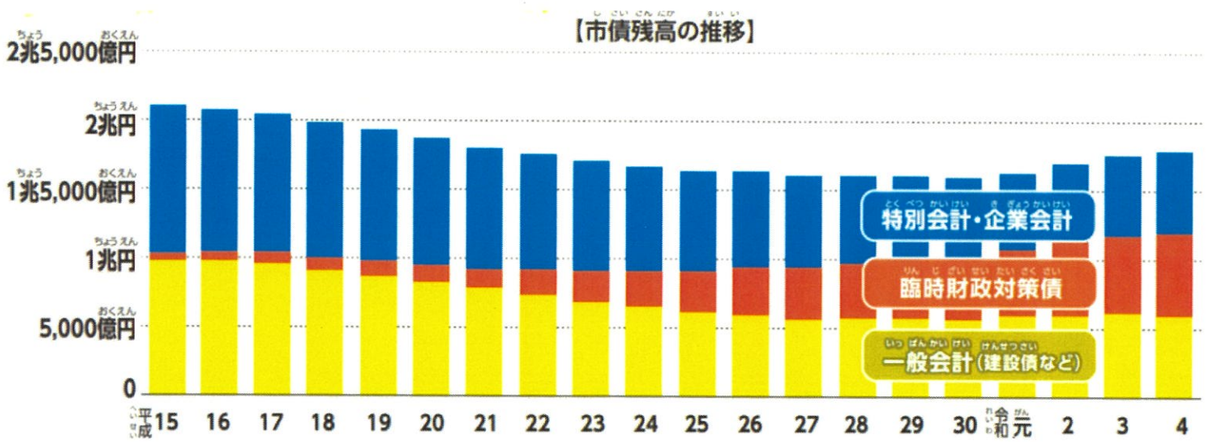
臨時財政対策債の残高は、最早、**単なる累積赤字**に過ぎず**「不良債務」**と捉えるべきであり、この**約5,500億円に及ぶ赤字ローンの返済**が、今後、札幌市の財政に重くのしかかってきます。

五輪を招致出来るのは、東京都や川崎市など、財政的に余裕のある一部の地方交付税不交付団体に限られ、莫大な借金を抱えた札幌市には、五輪を招致する資格はありません。

今後は、市の借金を増やし続ける臨時財政対策債の発行を直ちに止め、国に対して地方交付税の純増を求めることはもとより、歳出の抑制も図りつつ*累積赤字の解消に努めるべき*です。

札幌市の市債残高（借金）の状況

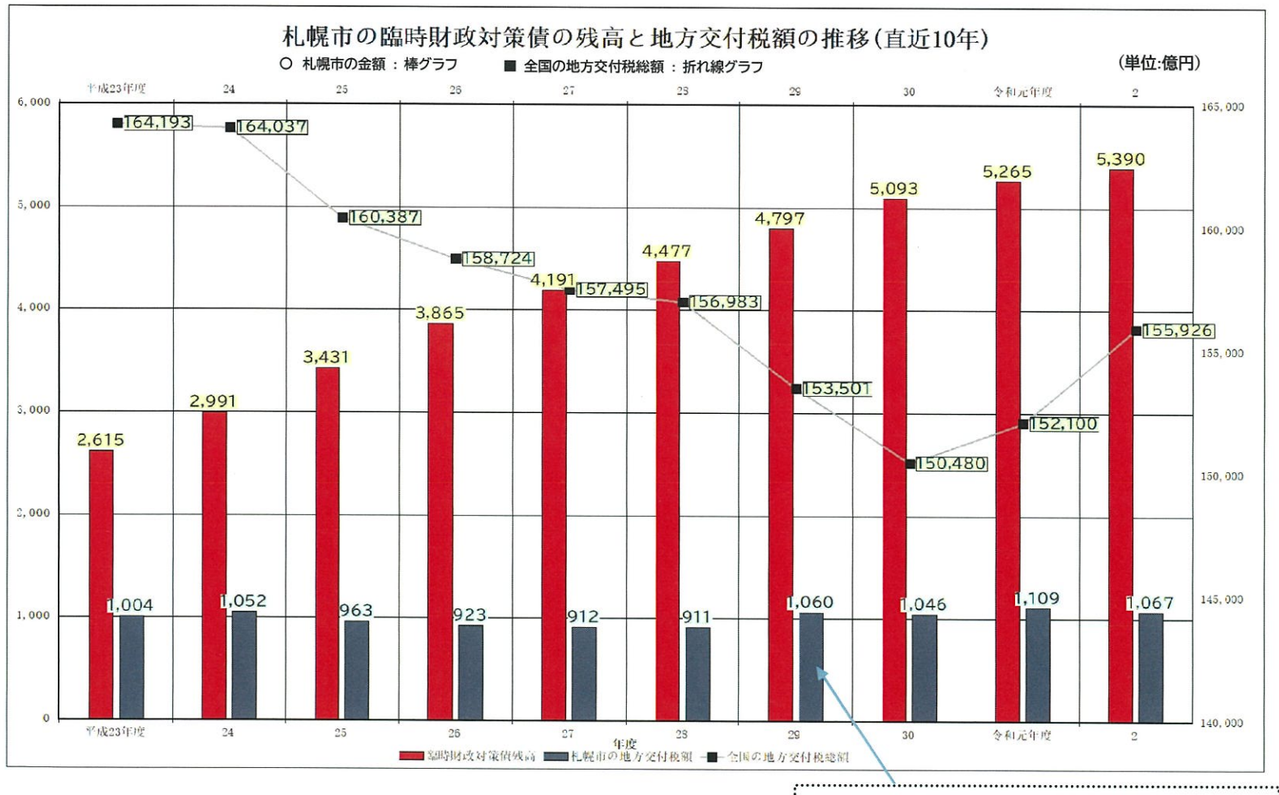
－ 毎年財源不足で借金漬けなのに「冬季五輪」なんて開催出来るの ？ －



※令和2年度までは決算額、令和3年度・4年度は予算額です。

まちづくり応援キャラクターの「まっちぃ」です。
札幌市って、令和４年度末で１兆７千億円もの市債残高（借金）があるんだ…（汗）
建設債はどんどん減って臨時財政対策債は増えているよね。
黄色の建設債とか、赤色の臨時財政対策債って何なの？

自治基本条例キャラクターの「じっちぃ」です。
建設債というのは、道路整備や公共施設の建築や公共用地の取得などの際に、札幌市が政府系資金や民間銀行等から借りてくるお金のことです。
建設債の発行は札幌市の建物や土地などの資産形成に寄与しています。
一方、臨時財政対策債というのは、毎年の財源不足（赤字）の補填のために借りてくるお金のことで、いわゆる「赤字公債」のことです。
今の札幌市は、一般の公共事業を抑制して建設債を減らす傍ら、毎年の財源不足へ充当するために、どんどん臨時財政対策債の発行（借金）を増やし、今やこの赤字公債の残高は一般会計の市債残高の約半分（5,500 億円）にも達しています。



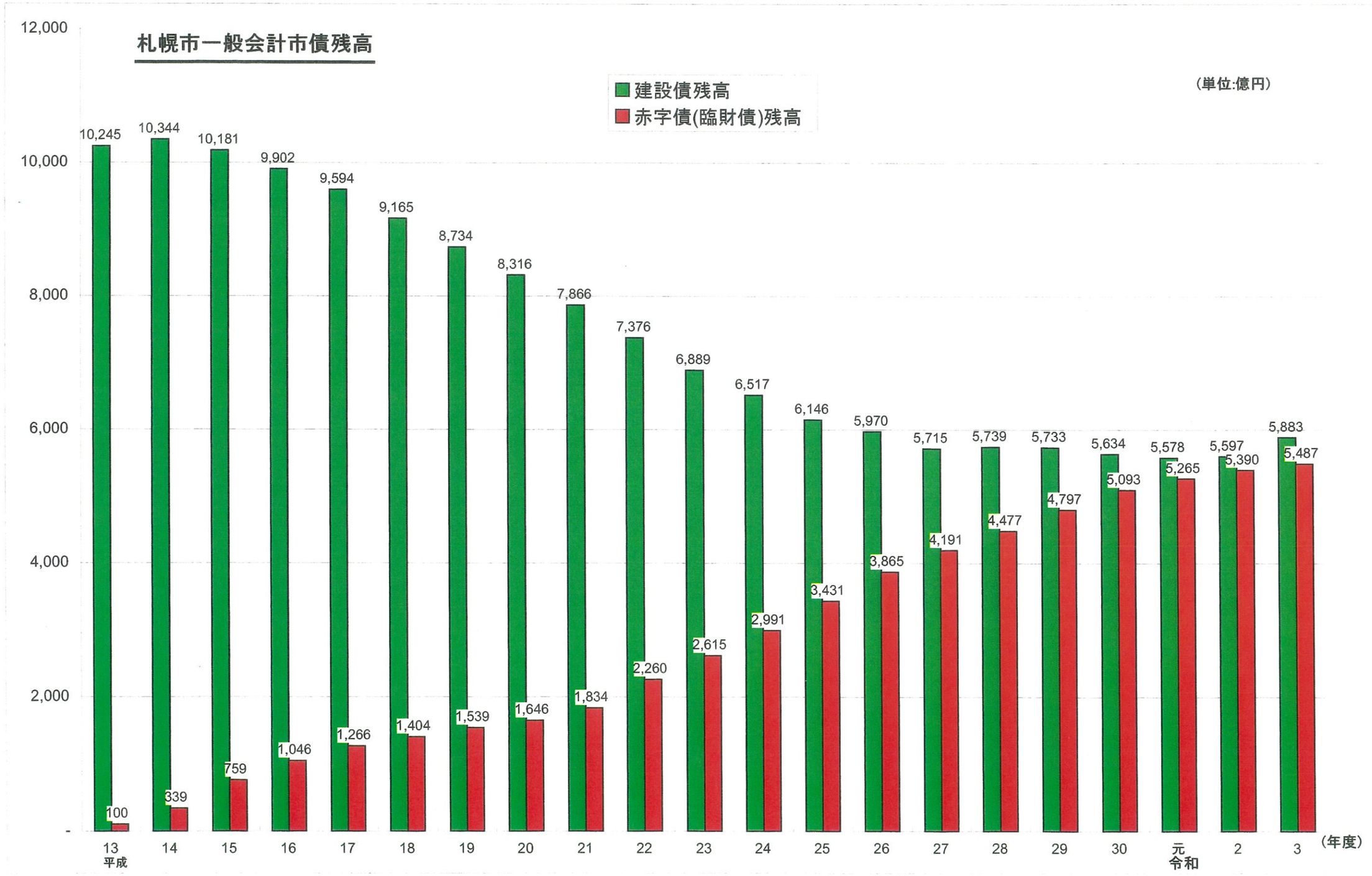
平成 29 年度より、北海道の教職員人件費分の交付税（約 150 億円）は札幌市で算入

臨時財政対策債って無担保のカードローンみたいなものなんだね。
左の表の赤い棒グラフを見ると、毎年残高が凄い増えているよね…。
でも、たしか臨時財政対策債って、その元利償還金の 100%が後年時の地方交付税で国から補填措置されるって聞いているし、良質な市債（借金）だったと思うのだけど。。 違うのかな？

国が臨時財政対策債の元利償還金に地方交付税措置をするというのは、制度的に地方交付税の算定基礎に元利償還金を算入しているだけであり、あくまで建前なんです。
左の表の紺色の棒グラフを見ても分かるとおり、札幌市の地方交付税額は、毎年度 900～1,000 億円台で推移しており、国から補填措置（加算）なんか全然されていません。
国の地方交付税の総額（入口ベース）も折れ線グラフのとおり、増えるどころか減っており、毎年度 15～16 兆円台という水準は変わっていません。
要するに、地方交付税というものは単なる枠に過ぎず、国税や市税の増減により若干の変動があるとしても、地方に交付出来る現金には上限があるのです。
本気で地方へ現金で補填措置を講じたいのなら、「所得税及び法人税の 33.1%」「酒税の 50%」といった地方交付税に回す国税の法定料率を引き上げるか、あるいは別枠で臨時財政対策債の元利償還金相当の交付金を新たに創設しなければなりません。
札幌市は、臨時財政対策債の元利償還金の莫大な負担増に伴い、今や慢性的な財源不足の状態に陥っており、毎年度借金の返済のために借金を重ねている財政状況にあります。
国の借金が 1,000 兆円を超えた今、最早、地方交付税の総枠が増えることは期待できず、この臨時財政対策債の残高は、単なる札幌市の「不良債務」と捉えるべきです。
これは札幌市に限らず、ほとんどの地方自治体に共通する全国的な問題なんです。

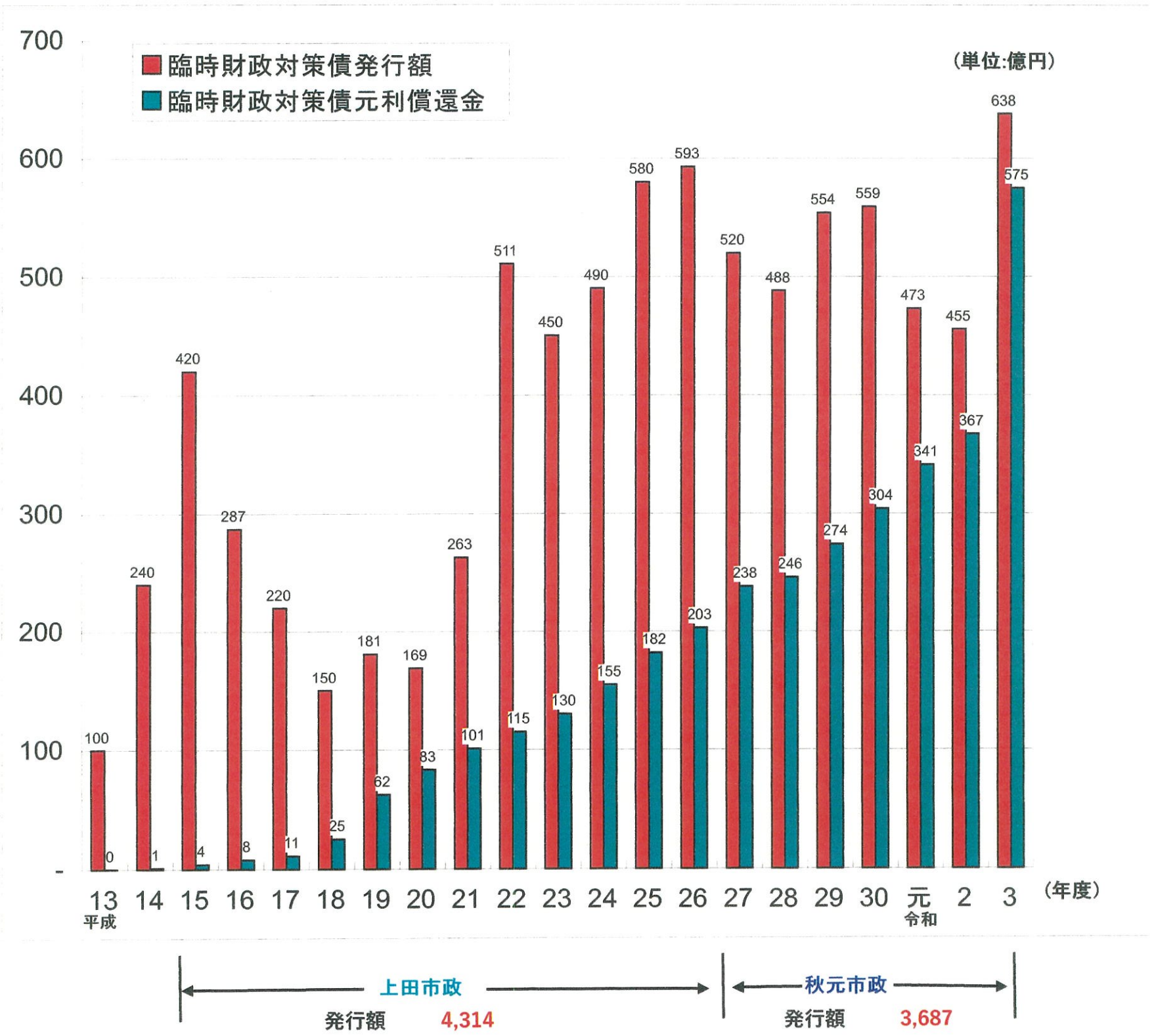
札幌市が一般公共投資(建設債)を減らし続け、その一方で赤字債を発行し続けた経年推移

(この結果、建設業界が疲弊し都市インフラや公共施設の劣化を招き、除排雪のレベル低下にも繋がった)



借金の返済のために借金を重ねる
臨時財政対策債(赤字公債)の発行推移

札幌市



令和 3 年度地方公共団体決算　全国ベース

【参考】

普通会計が負担すべき借入金残高（推計）

区　　分	令和3年度	令和2年度	増減額	増減率
地方債現在高	144兆5. 810億円	144兆6. 062億円	▲252億円	▲0. 0%
うち臨時財政対策債	54兆1. 074億円	53兆6. 156億円	4. 918億円	0. 9%
公営企業債現在高（普通会計負担分）	16兆2. 613億円	16兆7. 943億円	▲5. 330億円	▲3. 2%
交付税特別会計借入金残高（地方負担分）	30兆1. 123億円	30兆9. 623億円	▲8. 500億円	▲2. 7%
合　　計	190兆9. 546億円	192兆3. 628億円	▲1兆4. 082億円	▲0. 7%